

11) 岡山県

狩山俊悟（倉敷市立自然史博物館）・地職 恵（岡山県自然保護センター）
片岡博行（重井薬用植物園）

(1) 調査への取り組み

岡山県で最初にタンポポの分布調査が行われたのは 1977 年のことである。東京学芸大学の小川 潔先生の呼びかけに応える形で、岡山の自然を守る会植物部会がタンポポ調査を実施されている。その成果は、岡山市街地を中心としたタンポポの分布状況を示すパネルとして展示され、謄写版刷りの会報の一部としてまとめられている（岡山の自然を守る会植物部会編、1977）。その後、末広・山田（1980）、山陽放送編（1998）、岡山市編（1998）、倉敷市編（2001）のタンポポ調査があるが、調査地域が限られていたり、種類が一部または不確定であったりするので、今回のようなタンポポ全種を対象とする全県的な分布調査は初めての試みといえる。

岡山県実行委員会は、岡山県南部に活動拠点をもち倉敷市立自然史博物館友の会（担当：狩山俊悟）、岡山県中部に活動拠点をもち岡山県自然保護センター友の会（担当：地職恵）、岡山県北部に活動拠点をもち津黒いきものふれあいの里友の会（担当：片岡博行）の3団体からなり、岡山県全域をほぼカバーできる体制とした。

調査は、実行委員会を構成する3団体ごとに調査票の配布と回収、花粉観察、データ入力を行った。3団体共催の自然観察会や各団体独自の自然観察会・説明会を実施し、幅広い層へ参加の呼びかけを行った。また 2010 年は、予備調査の結果を参考に、調査密度の低い地域での重点調査や、学校・市町村教育委員会への参加呼びかけを行った。調査データは倉敷市立自然史博物館に集積され、とりまとめが行われた。

(2) 結果の概要

岡山県実行委員会には8,363 件の調査票が寄せられた。そのうち有効とされたものは8,319 件であった（表1）。人口密度の高い地域で調査密度がやや高い傾向があるが、ほぼ

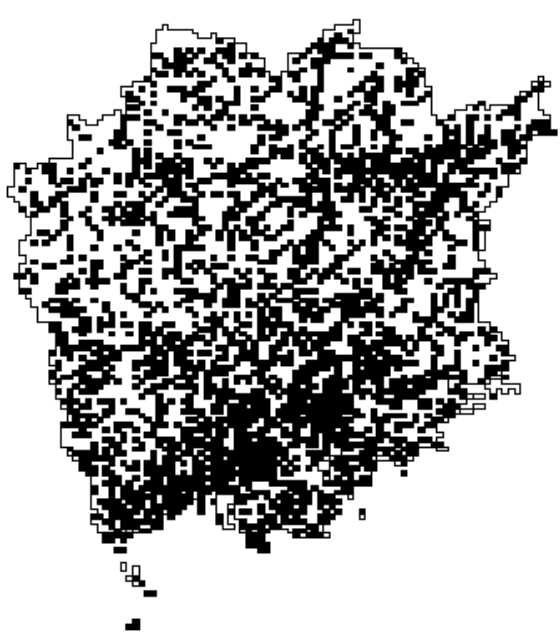


図1 岡山県における全調査地点

表1 岡山県における種類別サンプル数(2009 年～2010 年)

種 類		サンプ ル数	比率%
在来種	カンサイタンポポ	3092	37.2
	トウカイタンポポ	3	0.0
	二倍体在来種(不明)	2	0.0
	クシバタンポポ	65	0.8
	ヤマザトタンポポ	33	0.4
	黄花倍数体在来種（不明）	3	0.0
	シロバナタンポポ	428	5.1
	キビシロタンポポ	691	8.3
	在来種合計	4317	51.9
雑種を 含む外 来種	セイヨウタンポポ	1482	17.8
	アカミタンポポ	560	6.7
	外来種(不明)	1570	18.9
	外来種合計	3612	43.4
不明（タンポポ）		390	4.7
合 計		8319	100.0

全県でまんべんなく調査が行われ(図1)、調査参加者は氏名が判明しているだけで454名に及んだ。

① 岡山県のタンポポの種類と分布（表1、図2）

岡山県内で見つかったタンポポの種類は、在来種が6種類、外来種（雑種を含む）が2種類であった。一部地域では種名不明の二倍体外来種（オオズタンポポ（仮称）に類似）と黄花倍数体外来種（モウコタンポポに類似）が見つかり、今後の研究が期待される。

a. カンサイタンポポ

岡山県北西部を除く地域に広く分布していた。岡山県北西部に分布しないのは気温（暖かさの指数がおおむね100以下の地域）や地質（石灰岩地がある）が関係しているかもしれない。カンサイタンポポとしたものの中には総苞外片が強く赤味を帯びるものと、赤味が入らず白緑色のものがあつた。また、外見上はカンサイタンポポと考えられるものであっても花粉サイズがばらついているものがあり、それらは「不明（タンポポ）」として処理した。

b. トウカイタンポポ

3か所の地点に散在していた。生育地が元大規模遊園地そばの草地であつたり、道路沿いの法面であつたりするので、人為的に持ち込まれた可能性が高い。

c. クシバタンポポ

岡山県中部・北部に分布していた。岡山県中部の2か所は植木などとともに人為的に持ち込まれた可能性が高い。サンプル数を2009年の予備調査と比べると、2～4倍に増えている種がほとんどであるにもかかわらず、クシバタンポポだけは9倍に増えていた。このことは、クシバタンポポが主に分布する岡山県北部での調査で進んできたこととあわせ、クシバタンポポを見分けることができるようになった参加者が増えてきたことによると思われる。クシバタンポポは新見市哲西町大野部をタイプ産地とする。

d. ヤマザトタンポポ

岡山県中部・北部に分布していた。確認地点は多くなく、キビシロタンポポの分布域にほぼ含まれていた。花色の薄い個体はキビシロタンポポとの区別が困難であつた。場所によっては角状突起のやや著しい個体が見られた。

e. シロバナタンポポ

ほぼ全県に分布するが、南部の岡山市・倉敷市、中部の井原市・高梁市、北部の津山市近辺に分布密度の高い地域があつた。2002年には高梁市でツクシシロタンポポが見つかつているが、それとの関連は不明である。

f. キビシロタンポポ

岡山県北部を除き県内に広く分布するが、北西部が特に分布密度が高かつた。キビシロタンポポとしたものの中には、舌状花の色が薄いクリーム色からレモン色に近いものまで変化があつた。また、そう果の色も濃茶褐色から淡褐色まで幅があつた。キビシロタンポポは新見をタイプ産地とする。

g. セイヨウタンポポ

岡山県内全域に分布していた。岡山県で最も広く分布しているタンポポであつた。セイヨウタンポポの中には、頭花が大きく舌状花の数も多いタイプと、カンサイタンポポほどの頭花の大きさに舌状花の色がやや薄く舌状花や総苞外片の数も少ないタイプが見られた。

h. アカミタンポポ

県内全域に分布していたが、岡山県南部の都市部で特に多かつた。新規に造られた山中の林道沿いなど、思いがけない場所でも見つかった。



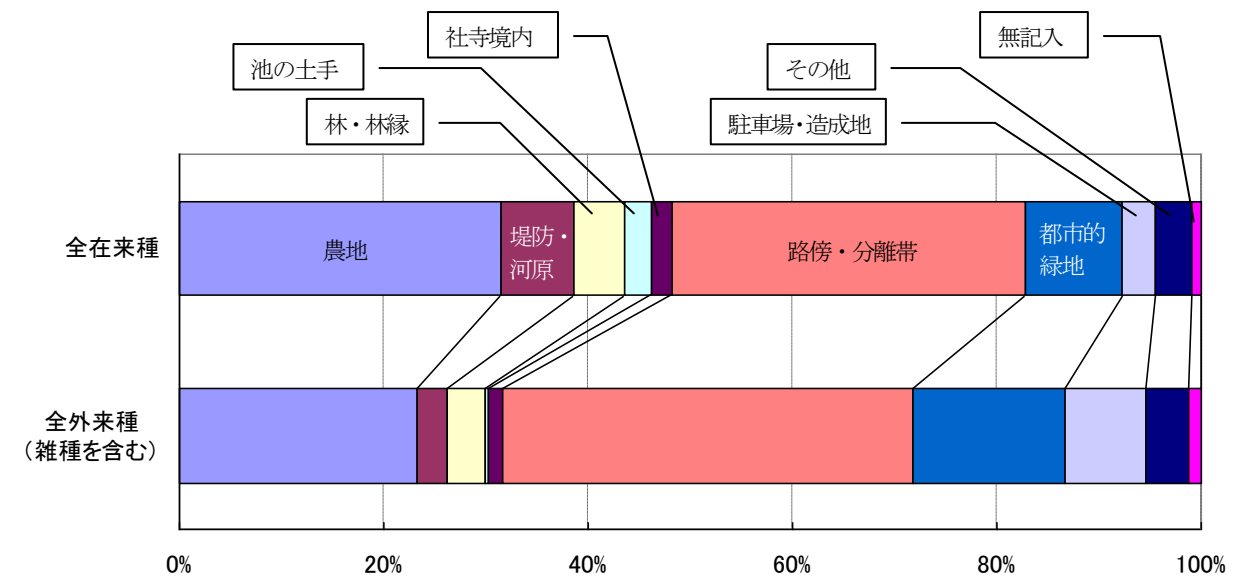
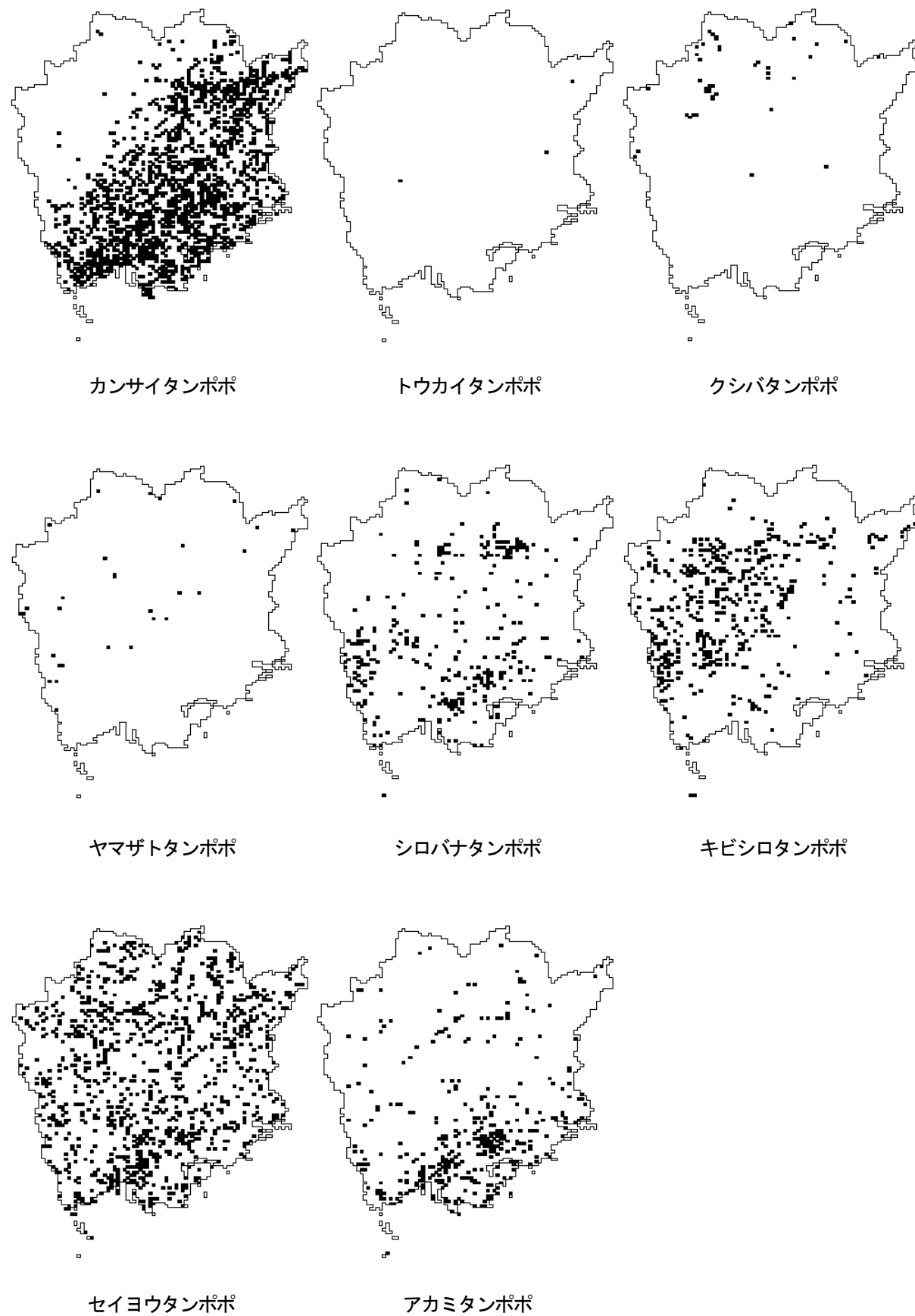


図3 全在来種と全外来種（雑種を含む）それぞれの生育環境

② タンポポの種類と環境

在来種は昔ながらの自然環境が保たれている農地、堤防・河原、林・林縁、池の土手に多かったのに対し、外来種は土地が改変された路傍・分離帯、都市的緑地、駐車場・造成地でより多く見られた（図3）。「農地」を、ほ場整備された農地とそうでない農地とで細分化すれば、在来種と外来種の分布がもう少し明確になったかもしれない。また、「路傍・分離帯」の記入にあたって、例えば農地の中を通る車道沿いで得られたサンプルを農地に入れている人もあれば路傍・分離帯に入れている人もあり、扱いがまちまちになっている。

a. 在来種

池の土手、堤防・河原、社寺境内では、それぞれの環境に生育するタンポポの6割以上はカンサイタンポポが占めた。またクシバタンポポの6割近くは路傍・分離帯で見つかった。クシバタンポポは車で移動しながら探することが多く、そのような結果になったものと思われる。

b. 外来種

のどかな田園風景が広がっていても、その田んぼに構造改善事業が入っているとあぜ沿いに一面セイヨウタンポポがみごとな群落を作っていた。自然が改変されると、セイヨウタンポポが工事後に急激に進入してくると予想される。

(3) 引用文献

<論文>

末広喜代一・山田恵子、1980. 岡山県玉野市におけるタンポポ属 *Taraxacum* の分布と生育環境. 香川大学教育学部研究報告第Ⅱ部、30(2)：157-180.

<報告書>

倉敷市編、2001. 身近な自然調査報告書. 48pp. 倉敷市環境保全課自然保護係.

岡山の自然を守る会植物部会編、1978. 第一回タンポポ調査報告. くさむら、(1)：58-67.

岡山市編、1998. 身近な環境調査報告書. 53pp. 岡山市環境保全課.

山陽放送編、1998. おかやま市・くらしき市・たかまつ市市街地タンポポレポート たんぽぽ探偵団調査結果「だんでらいおんBOOK」. 12pp. 山陽放送、岡山市.